

戸田市版SAMRモデル 学びの質の向上を目指して

戸田市版SAMRモデルは、ICTの活用を目的化するものではなく、教師が学びの質の向上を目指し、自身の授業にICTがどのように位置付いているかを**振り返る指標**であり、令和6年度は、**M段階の学びの推進**を目指す。以下の令和5年度における市内のグッドプラクティスから、M段階の学びの特徴と事例を示すので、参考にする。

S **【代替】**
Substitution

デジタルの特性が発揮されていない

A **【増強】**
Augmentation

活用経験・スキルが蓄積

M **【変革】**
Modification

授業観・教師の役割の変容

R **【再定義】**
Redefinition

社会に開かれた活用

基本となる視点

単元目標の達成に向けて、**子供主体の活動**にICTが位置づいた単元デザイン（教材・学習形態・活動等の設定）のもと、**子供が主語となる学び**となっているか。

特徴1：子供が、単元（本時）の**ゴールを理解**し、**自分ごと**として課題に取り組んでいる。

特徴2：子供が、課題解決の方法を選択できる**物的・空間的環境**が整備されている。

特徴3：子供が、**自己調整力**を働かせ、**主体的**に学ぶためにICTツールが活用されている。

【事例1：小学校・総合的な学習の時間】プロジェクトの計画・進行が子供に委ねられる。教師は共同編集アプリやチャット等を用いて、各グループのプロジェクトの進捗を把握し、児童の学びを伴走者として支援する。



プレゼンテーションアプリを活用し、**子供同士で共同編集**をしながら成果物を作成する。

各グループでプロジェクト計画を作成、教師は進捗状況を把握。

特徴1		特徴2	特徴3
13	金 フォトリマージュを学ぶに挑戦	13	水
14	土 リサイクル 金まで	14	木
15	日	15	金
16	月	16	土
17	火	17	日
18	水	18	月
19	木	19	火
20	金	20	水
21	土	21	木
22	日	22	金
23	月	23	土
24	火	24	日
25	水	25	月
26	木	26	火
27	金	27	水

【事例2：中学校・理科】仮説を検証する手立てを子供自身が設計し、実験結果を各自が最適だと思う方法で記録し、考察、表現する。教師は多様な教材や実験器具といった学習環境を準備する。



学習課題における授業内での子供の反応を想定し、**多様な実験器具**をあらかじめ準備している。

音の分析ツールを活用し、各自が選択した実験を行う。



【事例3：小学校・体育】子供が自分の技を見たり手本動画を確認したりして、技の出来映えを高める。教師は児童間の交流を促し、子供の学習意欲を高めるほか、学校と家庭のシームレスな学びの充実を図る。



子供が**家庭等で反転学習**を行い、目標や技のコツを事前確認。試技を共有サイトにアップすることで意欲の向上につなげる。



留意点

「子供が主語となる学び」は子供の発達や学び方の習熟段階によって異なる。発達段階に応じて、教えるべきことは教える場面も単元計画に位置づける必要がある。

ICTの特性とは？



R3指導の重点

戸田市版
SAMRモデルとは？



R4指導の重点

M段階へのステップ



R5指導の重点

参考リンクを掲載

戸田市ICT活用
推進ポータルサイト

